

小學校より幼稚園に望む

□

東京府青山師範學校
附屬小學校主事 櫻

井

美

與へられた題目について異様な感じを起ささないわけではない、幼稚園はその幼児の保育について、幼児の本性に基いて、其の生活を存分に充たさず様工夫さるべきものと思惟するもので、従つて幼稚園からこそ、小學校の教育に希望すべきものが多々あることゝ信ずるものであります。我が國の教育が、一體に上級の教育からして、下級の教育が種々の點について自然に制限を受けつゝあつて、而かもそれが必ずしもよいことではないのであります。これを小學校について考へて見ても、中等學校教育のために、その本來の姿を變化させられることが多いのであつて、中等學校殊にその初學年の教育に對しては、小學校として希望すべき點を持つものであります。それ故幼稚園についても同様の所感をもつのであります。しかし上級教育の側から考へ且つ希望するこいふことも、當該教育の本質を發揮するこいふ點から觀察するならば一向に差支へないのみならず、又相互に裨益するところがあることゝ思ふので、即ち幼稚園は須らく幼稚園本來の姿を發揮すべしこいふことを基調として、小學校側から希望を與ふるのは無用のことではないと思ふのであります。

二

幼稚園と小學校との聯絡關係については、私はむしろ小學校の初學年の教育の方面について考慮する點が多いと思ふの

であります。而して幼稚園に對しては、所謂小學校の準備といふ様なことを考へるよりも、幼兒本來の性質に従つて其の生活を充實する様に工夫するところが、やがて眞の小學教育に對する基礎となり、小學教育に對する眞の準備となるものと思ふのであります。これは一般的に申したのであります。更に具體的に考へるならば、今日幼稚園の保育を受けて、小學校に進み來りたるものについて、小學教育上實地に觀察せられたる諸點について考察することが肝要であると思ひます。この點について同僚高村君の調査したところによれば、次の如きものがある。

幼稚園に對する両親の報告

善い結果

- (イ) 社交的になり快活になつて來た。
- (ロ) 物を大切にして始末よくする様になつた。
- (ハ) 間食をしなくなつて身體が丈夫になる。
- (ニ) 遊びが上品になつた。
- (ホ) 學校によるこんで通ふ。
- (ヘ) 觀察力が鋭く理解が早くなつた。
- (ト) 兄弟仲よくなつた。
- (チ) 内氣が我まゝが目に見えてなほつた。
- (リ) よく眠り、早寢早起きになる。

悪い結果

- (イ) 初年級の中は成績がよいが次第に悪くなる。
- (ロ) 自分の力を誇りたがり他の朋輩が自分に追ひつゝこねたむ。
- (ハ) 學習態度に落付なく學科を馬鹿にする。
- (ニ) 教師に馴れすぎてお世辭やおべつかをする。
- (ホ) ごまかしをしたがる。

幼稚園に對する小學校の報告

善い結果

- (イ) 社交的で團體生活に適する。
- (ロ) 自分の身の周りの始末を獨りでする。
- (ハ) 常識が發達して氣轉がきく。
- (ニ) 言語態度がハキ／＼してゐる。
- (ホ) 諸作法、唱歌、遊戯、手工等の外面的に勝れた色彩を持つ。

以上の長短兩面の報告は、大體に於いて首肯せらるゝところのものであります。しかしその缺點もいふものも、ある特別なるものに存するこゝを全體的に述べられたる嫌はあるのでありますが、さういふ方面に陥り易い傾向があるのは事實であります。心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養せむとする幼稚園に於きましては、これ等の長所を發揮するこゝにつこめるゝ同時にその陥り易い點については、これに警戒を加ふる必要があるやうに思はれます。勿論これらの警戒は獨り幼稚園に於てのみでなく、家庭に於いても、はた又小學校に於いても注意すべきものゝ信するのであります。

三

次にわが國に於ける社會の情勢からして、幼稚園施設に對する希望を申しますならば、今日の幼稚園は、中流以上の社會に於ける存在であるといふ感じを持つものであります。これを中流以下の社會の存在たらしむる様にしたいいいふこゝを熱望するものであります。大正十五年の幼稚園令發布當時の施行上の注意事項なるものゝ中にも、『父母共に勞働に従事し子女に對して家庭教育を行ふこゝ困難なる者の多數居住せる地域に在りては幼稚園の必要殊に痛切なるものあり、

悪い結果

- (イ) 高慢になつて幼稚園に行かない友を遊ばない。
- (ロ) 小學校に入つてから、うぬぼれが強く學科に身を入れない。
- (ハ) 言葉や行動が荒つほくなる。
- (ニ) 小利巧になつて、必要以上の求知心を持つ。

今後幼稚園は此の如き方面に普及發達せむことを期せざるべからず云々といはれて居るのでありまして、全然同感を表するものであります。のみならず所謂「此の如き方面へ」の普及發達を圖ることは、實に我國教育全面の進展のために重大なる關係を有するところ信するのであります。而してこの注意事項の『普及發達』といふことは、現行幼稚園令のやうに、その設置に關して任意規定のまゝにして置いたのでは、到底其の目的を達することは出来ないことであります。さうしても、公立幼稚園の設置に關して、一層積極的の規定が設けられなければならぬことであると思ふのであります。この點については勿論教育行政當局の劃策に待つべきものたるは明かなことではありますが、しかし其の基礎は一般社會の輿論にあるのであるから、先づ以て幼稚園教育に盡力せられます人々の配慮に負ふところの大なるものであること信するのであります。

四

次に私は、現行の幼稚園令及び幼稚園令施行規則を見まして、感ずることは、餘りに一般的であつて、日本の幼稚園、わが日本國民の善良なる性情を涵養する幼稚園の教育としての色彩が見えないといふことであります。

從來わが國教育が、兎角外國模倣に偏して來たといふことは、事實であります。しかしながら今や歐米文化の弱點といふものも明かにせられ、わが國傳統の偉大なる精神の内省が深められ、わが國独自の立場に立つて、明かに日本國民の教養に従事せねばならぬ時期であるのであります。日本國民たる善良なる性情を涵養するといふことは、無論その幼時よりして著すべきことであるのでありますから、茲に日本幼稚園教育に對しても、その色彩を何等かの形に於いて表はすことが肝要であること信するものであります。日本の教育はアメリカの教育でも、イギリスの教育でもなく日本の教育であります。日本國體に基く日本精神の發揮するところがなければならぬのであります。これを具體的に申しますなれば、かの四大節に於ける儀式に由る教育の如きは、正さに日本教育の特色であつて日本精神の發揮の教育であると思ふのであります。すが現行幼稚園施行規則に、何等この儀式教育に關して規定するところがないやうであります。これら國家的の儀式につ

いては、小學校、中等學校何れも、その教養について留意して居るのでありますが、無論幼時よりしてこれをなすのが優れるこゝであります。兎に角わが日本國民たるべき幼児保育の意味を明かにせらるゝこゝが望まじきこゝであります。

□

東京府豊島師範學校
附屬小學校主事

小 山 文 太 郎

急激な生活の變化から來る強い刺激は、それが肉體的であるを問はず教育能率を低下させるものである。今まで家庭中心の生活をしてゐた子供が、急に小學校に入學するこゝは非常な生活の變化である。従つて強い刺激を受けるのが普通である。氣の弱い子供や神經質の子供などは特に甚だしいので、ひさいのこゝになるこゝに入學當初に食欲が急減したり、安眠が出来なくなつたりする程のものもある。一般に兄弟の少ない者や家庭から直接に學校生活に入る子供などは特にひさい様である。幼稚園は、此の急激な生活の變化を餘程緩和するこゝになり、此の方面だけでも大きな力となるのであるが、小學校入學期に近づくにつれて學校生活の様式に近づけ、出来るだけ入學によつて受ける刺激を少くする爲めに努力して頂きたいものである。こゝつて小學校の教科課程を豫備的に覚えさせる意味ではない。文字を書くこゝや、讀むこゝを強要したり、無理な數生活を強ひたりするこゝは勿論幼稚園の仕事ではない。五「キログラム」のものしか持てぬ者に七「キロ」八「キロ」のものを持たせようこゝあせる様なもので、生理的又は心理的の發達を待てば何の苦勞もいらぬこゝである。たゞ小學校の仕事を理解し小學生としての態度に近づけて頂きたいのである。幼稚園に於ける保育項目は小學校に入れば教授課程となり、系統的に配列された仕事がある。その仕事を完全に遂行するこゝの出来る様な態度にして置くこゝが必要なのである。子供の持つ能力のすべてを、各方面に伸びくゝ充分に完全に働かせ得る態度が最も望ましいこゝなのである。小學校の先生を正しく認識してゐなかつたために先生の前へ出し急に固くなつてしまつた

り、萎縮してしまつたりしてはさうにもならない。小學校でも一年生の受持になれば、鼈甲ぶちの眼鏡も金ぶちに更へ髪もきれいにして出來得るだけの形の上までも印象をやはらかくしようを力めてゐるのである。幼稚園に向つての多々ある注文の中重なるものを左に書きつらねるこゝとする。

一、學校生活の豫備知識

例外なしに子供は伸びよう、進まうとする意慾に燃えてゐる。優越慾の旺盛なこゝもそのあらはれである。土が盛つてあればいちばん高い所に登つてお山の大将を氣取り、竝ぶにも先頭を喜び、靴をはくまで一番を争ふものである。年が七つから八つになつた事までが無上に嬉しいのである。まして一年生になるこゝは大きな喜びであるこゝは言ふまでもない。其の一年生としての生活にあこがれ、好奇の眼を輝かして其の日を指折り待つてゐる子供に小學生の生活を正しく認識させて置くこゝは子供等の期待をそのまゝに満足させてやるこゝになるし、生活の變化から來る刺戟を少くしてやるこゝになる。兎角世間には學校に行つたら斯うもしなければならぬ、あゝもしなければならぬとか、斯うあつてはならぬ、あしてはならぬなき、兒童生活を十重二十重に縛る所の様に教へ、親自身が子供に對してなす躰の鞭の代りに學校を悪用される傾向がないでもなかつた様な感がある。子供が學校に行けば自分の生活の一端を監視される所の様な緊張した態度で怖々來る様であつてはならぬ。こゝいつてまた行き度い時には行き、嫌な時にはなまけるこゝいつた態度になつてもこまる。たゞ兒童の向上慾を捕へ喜び勇んで學校へ行ける様に、また容易な氣持で學校へ行ける様に仕向けて頂かなければならぬ。

二、先生及び友達こゝの正しき認識を與へるこゝ

小學校に於ける先生は入學當初の兒童には、怖いもの、叱るもの、まるで檢事と判事との役目を兼ねたものゝ様に思はれてゐた時代もあつた。最近時は時々先生を呼ぶのに間違へて「小父さん」を親しげに呼ぶ子供がある様になつたのは喜ぶべきこゝである。小學校には幼稚園とちがつて直接關係のうすい多くの先生の居るこゝや、上級生である多くの生徒のゐる

こゝなきも正しく教へて置くべきである。新入生は先生よりもかへつて多くの元氣のいゝ上學年の生徒なさに威壓を感じるものゝ様に思はれる。多くの生徒は新入生に對して兄さし姉さして待つてゐるこゝなきを教へて置くこゝは、容易な氣持でこれ等に接し、何等懲戒するこゝなく仲間入りが出来るものである。

三、規律的生活になれしむるこゝ。

一學級五十人前後の兒童を一人の教師が受持つのである。思ひ／＼に勝手な時に勝手な事をさせて置くわけには行かぬ。多人數の協同生活には、それ／＼相當な規律がなければならぬ。子供の頭を働かす點に於ては各人あらん限り自由に思ふ存分に働かせ得る様に骨を折つてゐるのではあるが、始業時間までには登校せねばならぬし、歸校時間までは居なければならぬ。教室に入るべき場合には揃つて入らねばならぬし、相當な時間仕事を續けるこゝも出來なければならぬ。或る程度の規律的生活に慣れさせて置いてほしいのである。入學當初の兒童には此の點が一番骨が折れる様である。

四、自律的生活をなさしむるこゝ。

學校生活の間に於ける自分の身のまはりの事々を自律的に處理するこゝの出來る様習慣づけて置く事も大事な仕事の一つである。何もかも自分一人の判斷では行ふ事が出來ず、一々聞かなければ手も足も出ないさいつた態度であつてはこまる。持物の始末なぎについても他人の手を借りずに處理出來なければならぬ。ランドセルから本が出せなかつたり、上靴の穿き更へが出來なかつたり、便所へ一人で行けなかつたりする子供が間々ある。

五、幼稚園から學校への贈物。

新入生に對する受持教師の第一に骨折るこゝは各々の子供をはつきり知らうとするこゝである。何さいつても入學したばかりの子供は幾分の心的緊張はまぬかれないので、思ふ事も充分には言はないし、表情も一般に固いものである。始めの中は仕事も充分にはさせられないので、ありのまゝの子供の姿を見る機會が少いのである。特に女の子供なさは表情が

小さいので、これによつて心的状態を讀み取る事は困難な仕事である、各々の子供の性格をはつきり知るこいふことは教育的效果をあげる爲めの第一歩の大事な仕事である。兒童の父兄からもそれ／＼子供の性質なごの大體は聞き取るこゝが出来るが、家庭に於ける兒童の生活は両親、兄弟、弟妹の間に於ける生活であつて所謂縦の關係に於ける生活である。それに一般父兄には同年輩の多くの兒童との比較は出来難い仕事である。したがつて知能の方面でも、一般より進んでゐるのやら遅れてゐるのやら、普通なのやら、變つてゐるのやらはつきりわからぬものである。幼稚園に於ける生活は同年輩の間に於ける生活であつて、家庭生活では表はれぬ生活態度をあらはすものである。それにこゝでは一般兒童との比較も出来るので正しい批判を下すこゝが出来る。しかも手の行き届いた幼稚園で細かく觀察した材料は實に貴いものである。一期の中程になつて「ランドセル」を「ダンドセル」に發音してゐる兒童を發見したり「ダイブツ」を「ライブツ」に發音してゐるのを見つれたり。兒童の發音上の事だけについて考へても五十人の子供を一人の教師が見て行くこいふこゝになるこゝ仲々行届きかねるのである。一日でも早く子供をはつきり知るこゝが出来れば非常な教育能率の増進を來すわけである。其の兒童の教育上參考となる様な記録を細大にかゝわらず學校への贈物として持たせて下さる事が最も望ましい事である。

保育についての二、二

東京市麴町小學校長

田 嶋 眞 治

幼稚園の保育を受けた子供の躰け方については、尋常小學に上つてから、よく一種の批評を聞くこゝがある。教師に對して慣れなれしいこゝか、教師の威厳を感じなくなつてゐるこゝか、我儘だこゝか、學習に對して深い興味を感じなくなつてゐるこゝか、清新さを以て學習に勢を出さないこゝか、一種の學校病に侵された者が多いこゝか、言葉遣ひが悪くなつたこゝか、是